

千代田区—都心の魅力にあふれ 歴史と伝統が息づくまち

江戸開府以来の 日本の中心地

千代田区は、江戸開府以来400年以上にわたり、日本の中心地として発展してきた。かつて、大名屋敷や旗本屋敷が並び、また江戸っ子気質の職人が住んでいたまちは、近代的な大都市となった。



100周年を迎えた東京駅

千代田区長 石川雅己



江戸城の面影を今も残す皇居、大手町・丸の内・有楽町のオフィス街や霞が関の官庁街、電気街・誰もが気軽に楽しめるポップカルチャーの街である秋葉原、古書店街・本のまちの神保町、スポーツ店や楽器店が集積する小川町など、さまざまな「顔」がその代表性を持つとともに、歴史・文化がまちと人々の生活に脈々と息づいている。

東京駅から皇居を半周、 四ツ谷駅へ至る甲州街道

江戸五街道のひとつである甲州街道は、日本橋を起点に内藤新宿、高井戸、府中、日野、八王子、小仏峠、甲府を経て下諏訪に至る。当初、江戸城と甲府城を結ぶ軍事目的を主眼とし、江戸城に危

機が及んだときの避難路だったとの説もあるが、街道は旅の舞台であり、すべての文化や産業は「道」を通ってやってくる。江戸中期頃からますます街道の重要性が増し、江戸100万人の生活を支える動脈として発展した。

この道は千代田区内では、東京駅を横断し和田倉門跡からお濠沿いに皇居の南側を半周し、半蔵門から麴町大通り(新宿通り)を通り四ツ谷駅に至る。

東京駅は、昨年12月に開業100周年を迎え、さまざまなイベントが行われている。2012年に創建当時の姿に復元された丸の内駅舎は、東京中央郵便局KITTE、三菱一号館など、日々進化を続ける丸の内のビル街とともに、一大観光地ともなっている。



聖火リレーと東京駅(1964年)

和田倉噴水公園は今上天皇のご成婚を記念して1961年に建設、1995年に皇太子殿下のご成婚を機に再整備された。皇居東御苑は、旧江戸城の本丸、二の丸、三の丸の一部で、本丸跡には天守閣の石垣や富士見櫓がある。皇居外苑は、クロマツの植えられた大

芝生広場、濠、城門などの歴史的建造物があるとともに、楠木正成像も有名である。

江戸城の城郭は、わが国随一の規模で歴史的な価値が高く、その名残を最もとどめている濠部を中心に「特別史跡江戸城跡」として文化財に指定されている。

日比谷公園は1903年に日本初の近代洋風都市公園として開園した。千代田区立日比谷図書文化館もここにあり、3月22日まで特別展「千代田区の坂と橋―江戸・東京の地形―」を開催中だ。また、毎年8月には、丸の内音頭大盆踊り大会が地域の方々の努力でにぎやかに開催されている。



さくらの名所 千鳥ヶ淵

桜田門から半蔵門にかけては、

右手に濠をのぞみつつ、左手に法務省旧本館、警視庁、国会議事堂、最高裁判所と続き、国立劇場に至る。皇居周辺はまさに都心のオアシスでランナーの聖地でもある。「皇居周辺歩道利用マナー」を地域で定め、「周回は反時計回り」としている。

半蔵門の北側のお濠沿いは、桜の名所で有名な千鳥ヶ淵、イギリス大使館などがある。「千代田さくらまつり」を毎年開催しており、LEDでライトアップされる千鳥ヶ淵の夜桜は圧巻で、昼夜を問わず楽しめる場所である。また、四ツ谷駅の南北に続く土手の桜も見逃せない。

ちよだみらいプロジェクト ―地方との共生と豊かな地域社会

現在、10年後の本区の姿を描いた「ちよだみらいプロジェクト」と題した基本計画を策定中である。

私たちが暮らす都心千代田区は、食料、電気、労働力などあらゆる分野で地方に支えられて成り立っている。このことを改めて認識し、地方との連携を重要な視点として認める。都市の持つ集客力、情報発信力を活用して地方との連

携を促進し「地方との共生」を実現していく。

そして、「豊かな地域社会」を目標に、地域コミュニティの機能向上を図るとともに、若い世代が安心して子どもを産み育てることができ、歳を重ねても地域の中で孤立することなく、安心して暮らし続けることができる環境を重点的に整備していく。

また、2020年東京オリ

一口メモ

軍事の道から物流の道へ

江戸から甲府へ向かう甲州街道は、徳川幕府によって開かれ、のちには、甲府からさらに北西の中山道下諏訪宿に至る幹線道となつて道中奉行が管轄する「五街道」のひとつとされた。

「五街道」は、大名の参勤交代路として、また全国的な交通路を確保するために整備されたが、甲州街道を参勤交代に利用したのは信濃国の高島(諏訪)、高遠、飯田の三藩のみである。甲州街道整備の主眼は、江戸城と甲府城を結ぶことにあつたとされ、有事の際、將軍家の甲府城への退路とするための道であつたともいわれている。やがて、街道筋は、甲

ピック・パラリンピック競技大会開催に向けて、本区にはこれまで以上に外国人をはじめ多くの来訪者が訪れる。こうした方々や区内で活動するさまざまな人々を「おもてなし」の心で迎え、安心して快適に過ごせるよう、風格と清潔感のあふれるまちづくりを推進し、開催後を見据えた成熟社会にふさわしい取り組みを積極的に進めていく。

府城に詰める武士「甲府勤番」や、富士登拜を目指す「富士講」の旅人たちにぎわいをみせるようになっていった。



企画協力…全国街道交流会議「街道交流首長会」